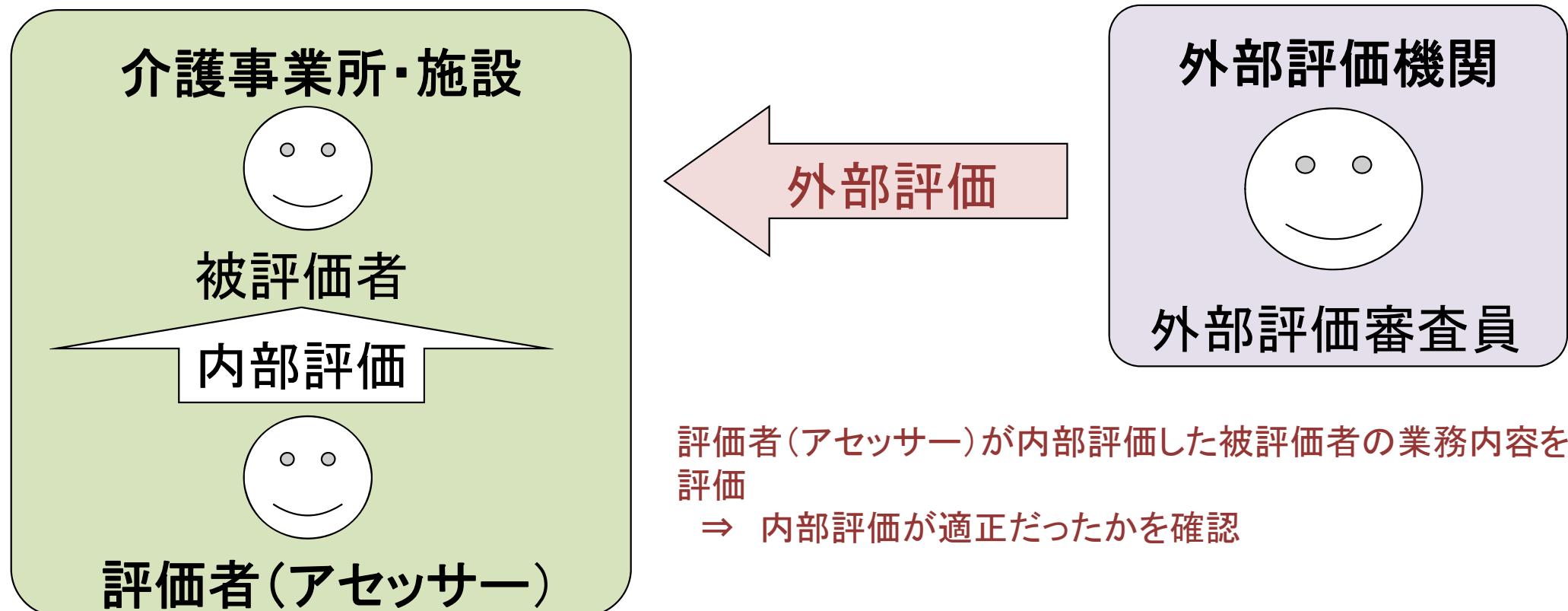


4. 外部評価の実施

外部評価について

○外部評価のスキーム

- 内部評価の適正性を確実に担保するため、外部評価機関の外部評価審査員が介護事業所・施設における内部評価を評価(外部評価)
- 介護事業所・施設は、原則1年に1回、外部評価を受ける
- 外部評価の結果、内部評価結果が不適正と判断された場合は、レベル認定の取消し等の措置が講じられる

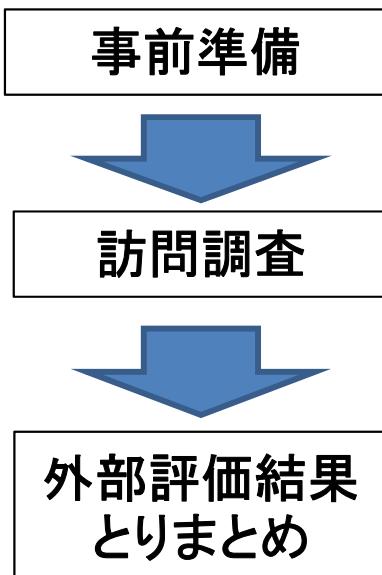


外部評価について

○外部評価の実施方法

レベル認定に当たって提出された各種帳票、事業所・施設内の記録、ヒアリング結果、現認結果等に基づき、外部評価審査員が被評価者の業務内容を再評価することによって実施。

外部評価の手順



「期末評価票等」と、事業所・施設から提出された記録の写し等で事前評価を実施。訪問調査準備。

事業所・施設に訪問。
オリエンテーション、事業所・施設見学
記録確認・現認・アセッサーヒアリング・被評価者ヒアリング

外部評価結果報告書等のとりまとめ

外部評価結果は外部評価機関を経由して実施機関へ提出。

実施機関で事前審査の上、レベル認定員会に付議。

レベル認定委員会で、外部評価結果を審議し、内部評価が適正かどうか判断。

模擬外部評価の実施

- 模擬外部評価を実施し、①外部評価(特に訪問調査)における手順の検証(構築)、②外部評価審査員の育成を行った。

■実施内容

<対象>

実際のレベル認定に対する外部評価ではなく、以下を対象として模擬の外部評価を実施。

- 26年1月(2事業所にて実施)

25年度アセッサー講習受講時に作成したトライアル内部評価(集合講習前に受講者が事業所内で試しに評価を行った書類)を対象に実施。

- 26年8月(2事業所にて実施)

外部評価審査員がアセッサーとして実施中の内部評価を対象に実施。

<実施方法>

事前準備 ⇒ 訪問調査 ⇒ 結果とりまとめ

<参加者>

計12名 (24年度合格者:6名、25年度合格者6名)

■成果等

1. 「外部評価審査員手順書」の作成
2. 外部評価審査員の育成・選抜(26年12月から実施した実際の外部評価審査に登用)

26年度の外部評価の実施方法

○26年度には、初めて外部評価を実施。シルバーサービス振興会が実施機関となり、実施の検証も併せて行った。

○26年度が初めての外部評価であったことから、実施に当たっての留意点、その他必要な事項を把握する必要。

○そのため、実施状況を検証するために、実施機関が外部評価機関となり外部評価を実施。



1. 外部評価機関 : シルバーサービス振興会
2. 外部評価審査員: シルバーサービス振興会から委嘱。
25年、26年度の模擬外部評価実施者から選定(7名)
3. 訪問調査 :
 - ①シルバーサービス振興会スタッフが同行(全11件)。
 - ②外部評価審査員講習の講師が同行 (計7件)
 - ③OJT参加者が同行(全国ブロック単位で抽出)(計6名)

26年度の外部評価の実施状況

○外部評価については、計11事業所・施設を対象に実施した。

(内訳)

- | | |
|------------------|-------|
| ・25年度レベル認定者輩出事業所 | 10事業所 |
| ・26年度レベル認定者輩出事業所 | 1事業所 |

(サービス種別内訳)

- ・特養:5、老健:3、訪問介護:1、通所介護:2

(都道府県内訳)

- ・岩手県:6、秋田県:1、福島県:1、福井県:2、静岡県:1

(外部評価対象となったレベルの内訳)

- ・レベル4:2、レベル3:5、レベル2②:3、レベル2①:1

外部評価審査員のフォローアップ

○25年度、26年度に講習を修了した外部評価審査員に対し、制度の理解をより深めるために、eラーニング教材を提供した。また、外部評価の一連の手順を実地で学習してもらうために、OJT演習を実施した。

1. 26年度外部評価審査員講習eラーニング(任意)

○目 的 : 介護キャリア段位制度、評価項目、外部評価の手順等の復習
○対 象 者 : 24年、25年度外部評価審査員講習の修了者114名
○実施者数 : 50名（実施率約44%）

2. 外部評価OJT演習

○目 的 : 事前準備から訪問調査、結果とりまとめまでの一連の外部評価審査員に求められる業務を外部評価審査員に同行して実施。訪問調査での手順、訪問調査に必要な事前準備等を学習する。
○対 象 者 : 上記のeラーニング修了者の中から、各ブロック単位で選定。このうち、外部評価審査員本人が参加に同意した方。
○参加者数 : 6名